



稚アユ体験放流が行われました

日野川河川事務所

平成31年4月24日(水)

平成31年4月11日(木)日野川の八幡橋上流左岸側で、日野川水系漁業協同組合主催による稚アユの体験放流が行われ、日吉津村立日吉津保育所の児童25名が参加しました。

この日放流した数は、約1万尾！

初めはバケツに入れられた稚アユを放流するスタイルでしたが、みんな上手に優しくそっと放流していました。

そして最後はビニールシート伝いに圧巻の大量放流 ～～♪

「大きくなあれ～～！！」という児童達の元気な声でアユを日野川へ送り出しました。

佐藤組合長の挨拶



みんなで並んで・・・



川の中は気持ちいいかな？



大きくなあれ～～！！



稚魚の大きさは10cm程度



一斉に放流！！



最後は圧巻の大放流！



日野川でさけの稚魚体験放流が行われました

日野川河川事務所
平成31年3月11日(月)

平成31年3月8日(金)日野川の八幡橋上流左岸側で、米子市立春日保育園と西保育園の園児合わせて38名が参加し、さけの稚魚体験放流が行われ、2万匹余りを放流しました。
この体験放流は、日野川水系漁業協同組合が主催し、10年以上前から毎年行われています。
園児たちは「帰ってきてね〜!」と元気に声をかけながら、さけの稚魚を日野川に放流しました。
佐藤組合長さんからは「4年後、日野川に帰って来られるさけは100匹に1匹程度しかいない」と説明があり、子供たちも自然の厳しさを感じたようでした。

人工授精した卵は水温10度に保たれた水槽で相次いでふ化し、越年した稚魚(体長5cm程度)を放流しました。
この後、稚魚は日本海へ降下して外海を回遊した後、4年後に体長70cm級の親ざけとなって日野川に戻ってきます。



70cm級の親ざけ



「帰ってきてね〜!」



テレビ局の取材もありました



組合長さんの説明
「100匹に1匹しか日野川に
帰って来れない」

